

福岡県高等学校登山大会中部ブロック予選会予報（馬見山～古処山）

登山専門部中部ブロック

今回の大会山域である馬見山・江川岳・屏山・古処山は「嘉穂アルプス」として2016年度の日本山岳遺産に認定され、九州では熊本県の「九州中央山地五家荘エリア」に続いて2つ目の認定地です。

この山域は嘉麻市・東峰村・朝倉市にありますが、2006年に市町村が統廃合され名前が変わっています。嘉麻市は山田市と嘉穂町、碓井町、稲築町が対等合併してこの地域の旧郡名であった「嘉麻郡」から嘉麻市となりました。東峰村は旧小石原村と旧宝珠山村が合併した自治体で朝倉郡に属しています。また、大分県日田市と隣接しています。そして、朝倉市は甘木市と朝倉町と杷木町が合併して朝倉市となりました。また、江川岳は2018年に山の名称を公募して決定された新しい名前の山です。

幕営地である旧小石原村には小石原盆地があり標高460～480mで湖底盆地と言われています。盆地内の5つの小河川を集めて小石原川が西流し、江川ダムの水源となっています。これらの川はいずれも筑後川に集められ、遠く有明海に注いでいます。

東側に英彦山～求菩提山地と西側に古処～宝満山地の結節点にあたる地域で、さらに、北側に遠賀川流域の筑豊盆地と西南方面に筑後川流域の筑後平野及び東南方面に日田盆地との結節点でもあります。

山域の植生はスギ・ヒノキの植林、ススキの草原、山頂付近ではブナ、馬見山周辺ではアブラチャン、そして古処山周辺ではツゲが特徴的である。

2. 大会コースのルートガイド（太線下線は主要地点）

① 1日目

彦山駅から南側に出発し赤橋の別所河内川を通過する。車に注意しながら国道500号線を横断し深倉川にかかる彦山橋を通過しすぐ右へ曲がる。この2つの川が合流し彦山川になる。川と並行に北へ進んでいき太祖神社、落合小学校横を通過する。しばらく進むと八女香春線である県道52号線へと合流するがすぐに左に曲がり芝峠方面へ進む。この分岐を地名より落合分岐とする。ここから芝峠まではスギやヒノキの植林地帯と川沿いにはシャガが群生している。このまましばらく登りが続くが542mでピークとなる芝峠を通過する。ここを通過した後しばらくはなだらかに下っていく。立ヶ隠（たちぐくら）の集落を通過して少し進むと直進と左折になっているのでここを左折する。しばらく進むと国道500号線と合流するので横断して右へ進む。この500号線は車道であるが九州自然歩道となっている。このまま進み1つ目を左折するとすぐに行者杉入口が現れる。この一帯はスギの大樹の森であるが、他にゆずり葉の木が特に目立つ。小石原焼の窯や石畳の風情がある街並みを歩きながら進んでいくと小石原グラウンドに到着する。



彦山橋を渡り右へ進む



県道52号と合流、左へ進む



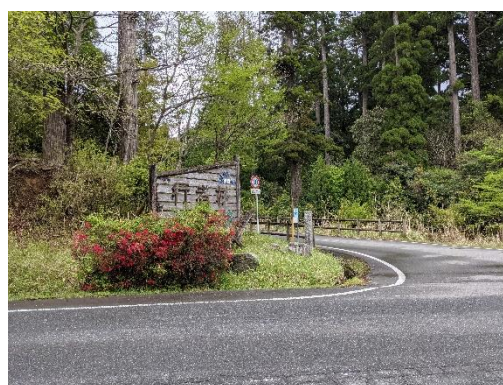
落合分岐、左へ進む



芝峠・立ヶ隠通過後、左へ進む



国道500号と合流、横断して右へ



行者杉入口、左へ進む

②2日目

小石原グラウンドを出発し国道211号線に出たら右に進む。自然歩道入口までは車道となるので注意して歩く。しばらく進むと小石原交差点を嘉麻峠方面である左に横断し進む。

この区間は長い車道区間となる。車に注意しながら進むと右側に旧民芸村みえてくる。その旧民芸村の向かいに自然歩道入口があるので左折し自然歩道を進む。

ここを通過するとすぐにススキの草原を進んでいく。そして急登を進んでいくとスギやヒノキの植林地帯に入る。この急登を越えさらに進んでいくと1つ目の林道分岐を横断する。この後小さなピークへ向かう道と巻き道があるが巻き道をすすむ。すぐに合流ししばらく進むと2つ目の林道分岐、3つ目の分岐と通過していく。4つ目の林道分岐の地点で林道が左側に並行して見えるので間違えないように注意しながら進んでいく。しばらく進むと右へ大きく曲がる大曲へとよばれる地点を通過する。ここを直進しないように注意する。

この後も林道を2回通過し進んでいくと左側がひらけススキの草原に出会う。ここからは馬見山の山頂を見ることができる。さらに進むと左に栗河内分岐があるが現在通行止めになっている。さらに進むと同様に南尾根分岐があるがこちらも通行止めである。展望が開けてくると馬見山山頂の標識があるが、ここは見晴らし台と呼ばれる場所である。ベンチや、北側に避難小屋があり、さらに南側の展望がすぐれ江川ダムも一望できる。

ここを通過するとすぐに馬見山山頂となる。ここから宇土浦越方面へ進んでいくが山頂の通過後、北側に逢拝所登山口への分岐があるので注意して進む。急斜面を足元に気を付けながら行って行く。この辺りはアブラチャンやブナが植生としてみられる。

宇土浦越に到着すると十字路になっており左側は鮎峠、右側は馬見林道方面となるが、江川岳方面へ直進する。ここからまた登ると山頂手前で、巻き道が右側に現れるが山頂目指して直進すると江川岳に到着する。このあと少し下ると右側に先ほどの巻き道と合流する。

ここからしばらくは緩やかに登っていく。山頂周辺になるとまた登りが急になるがすぐに屏山に到着する。屏山からは北側の展望がひらけ、秋のお祭りのときには一夜城を見ることができる。

ここから古処山に向けてすすむ。途中石灰岩が登山道の周辺に見えてくる。さらに進んでいくとツゲがひととき目立ってくる。左側に古処山巻き道を通り古処山を目指す。古処山が近くなると大将隠し分岐と山頂への分岐があるが、わかりづらいので注意して進んで行く。左右の生い茂ったツゲと石灰岩に足元を注意して進んでいくと古処山に到着する。古処山頂からは西側の朝倉市の展望がひらけている。山頂から右側に八丁峠方面へ分岐があるが、左側の野鳥方面へ下山する。

下山中もツゲの中を進んでいくがしばらくすると秋には紅葉が素晴らしいイロハモミジやヤブツバキが目立ってくる。この道は数年前の豪雨被害で道が荒れ、落石や滑りやすい石があるので特に歩行には注意が必要である。5合目駐車場を通過すると、ゴールも近くなるが引き続き足元に注意して進み古処登山口に到着する。